

「忍耐と識別力のある愛と信仰をもって歩む教会」

ピリピ 1 : 9 – 11 堀田修一 21・3・21

「あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが大切なことを見分けることができますように」ピリピ 1 : 9 – 10

本日の説教題と本日の総会の今年度の標語、目標はつながっています。

I コロナがいつ終息するかは、専門家でさえ分かりません。神のみが御存知です。その為に、今年も私達には、御霊の実である自制をもつての「忍耐」が必要です。神が下さる忍耐をもって、今年も、コロナ感染予防を忍耐をもって続けましょう。

「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いだと私たちは思います。あなたがたはヨブの忍耐のことを聞き、主によるその結末を知っています。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます」ヤコブ 5 : 11

コロナ禍や人生の試練の中で、活動が制限され、上に実を結ぶことが出来ないような時があります。そのような時、無理をせず、失望せずに、霊的な根を下へ下へと降ろして、下に降りて下さったイエス様に忍耐しつつ根を張りましょう。この忍耐の時間は決して無駄な時ではありません。「キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい」コロサイ 2 : 7。聖書的な忍耐とは、ただ暗い日々を過ごすのではなく、主に根ざし、主への信仰、信頼を堅くし、何もできないと文句を言うのではなく、今、神が置かれた所で、主の恵みを数えあふれるばかりに感謝し、出来ない事ではなく、出来る事を小さな事からコツコツと積み上げて行く事です。※励まされた言葉「どんな所に神によって置かれても、花（神のための）を咲かせる心を持ち続けよう。境遇を選ぶ事は出来ないが、生き方を主によって選ぶ事は出来る。現在というかけがえのない時間を主と共に大切に生きよう。こんなはずではなかったと思える事が起きる。そんな時も、出来る事を主に求めよう。人生の日照り続きの時、無理に咲かなくてもいい。その代わりに、下へ下へと根を張り、キリストに根ざして養分をいただこう」。コロナは神の時に終息し、神による芽生えが来ます！「見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を荒地に川を設ける」イザヤ 43 : 19。励ましの御言葉があります。「下に根を張り、上に実を結ぶ」イザヤ 37 : 31

II また、コロナ禍の中で、感染予防の為に、教会の集会のあり方や人への愛し方に「識別力のある愛」が必要です。今は、感染予防をしていても感染される、また、犠牲を払い治療して下さっている医療従事者の方々が、感染される事もあり得ますから、感染者を差別したり責めない愛を祈り求めましょう。教会の集会や行事をどうするか。ご高齢の教会員を i 教会が愛をもって支える分の識別、ii 本人とご家族の分の識別、iii 行政（介護、保健所、医療）にお頼み

する分（ご親族の責任の中で）を識別する必要があります。また、教会の集会の持ち方を祈りつつ識別する必要があります。「あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」ピリピ 1：9－10。

Ⅲ 昨年、コロナ禍の中で、教会の活動が多く制限される中で、神は生きて働かれ、洗礼を受ける人々、転入される人々を与えて下さいました。私達は、コロナ禍の中で、祈りしかできないではなく、全能の神に信仰をもって祈る事ができました。朝の祈り、午後6時から11時の都合の良い時の祈り、祈りのノートを用いての祈り。神は、どんな時にも神を信頼する信仰と祈りを喜ばれます。ある方が洗礼を受けられる背後に多くの方々の何十年以上のとりなしの祈りがあります。人が主を信じ洗礼を受けられるのは、神の最大の奇蹟だと再確認させられています。私達は、祈られて、主を伝える事は出来ませんが、人を救い、洗礼の志を与え、成長させて下さるのは神です。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」Iコリント 3：6。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」使徒 16：31。今後も、ますます、神を信じ、家族、知人、友人の救いの為に祈り続けましょう。

「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられる（いつでも存在し、ともにいて下さる）ことと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです」

ヘブル 11：6

i 有効なワクチン、コロナ終息の為、政治家の適切な対策、困っている人々への助けの為に、皆さんの感染からの守りの為に、日々、神を信頼し信仰をもって祈りましょう。

ii 平吹伝道師と教会の子ども達や若者達と信頼関係が結ばれ、若者たちが霊的に育って行くように、信仰を持って祈りましょう。伝道師だけに任せての若者伝道は祝福されません。各器官は主にあって繋がっています。子どもステップ、各委員会も礼拝説教も、教会全体が祈り支える時に、教会の業となり、神に祝福されます。バラバラではなくキリストの体として教会の業、教会の働きとなります。「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられるのです」エペソ 4：16。

iii 牧師と平吹伝道師と良い協力をし、主を間に置き正直な交わりをし、共同牧会が祝福されるように信仰を持って祈って下さい。

iv コロナ禍の制限がある中で、教会の礼拝、集会、行事を感染防止をしつつ、どのように自制したり進めて行くべきか、主が導かれるように、信仰を持って祈って下さい。

v コロナ禍の中でも「宣教と成長」の主の御業がなされ、救われる人や転入者が起こされ、私達が霊的に成長しますように、信仰を持ってお祈り下さい。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となる」ローマ 8：28